

奈良市における庭園の 悉皆的調査

— 宗教法人の庭園 —

1 はじめに

遺跡整備研究室では、奈良市教育委員会教育総務部文化財課との連携研究として、奈良市における庭園の悉皆的調査を2012年10月より実施している。本稿では、2013年度に主としておこなった、奈良市域所在の宗教法人を対象とした庭園に関するアンケートの結果と、現地調査の経過について報告する。

2 調査の趣旨

文化財的価値を有する可能性のある奈良市域所在の庭園を悉皆的に調査することで（すでに名勝指定を受けている庭園は除く）、市・県・国の文化財指定・登録等の保護施策のための基礎資料とすることを目的とする。

奈良県には、多くの貴重な文化財が存在するが、奈良市域の庭園で、すでに名勝指定を受けているものを除くと、文献等に記されたものはあまり多くない。一部の庭園については、奈文研建造物研究室に所属した森蘊らが調査を実施しており、その成果の一部が調査報告『奈良市史建築編』（1974）に記載されているほか、森自身が作庭・修理等を手掛けた庭園について記した『庭ひとすじ』（1973）などに記載がみられ、奈文研において当時の写真や実測図等の記録を保管している。また、文化庁による調査（『近代の庭園・公園等に関する調査研究』（2012）、『名勝に関する総合調査報告書』（2013））に際して、奈良市教育委員会がヒアリング調査等を実施した庭園も存在するが、奈良市域にはまだ専門的な調査がおこなわれていない庭園が数多く存在する。

本年度は主として、文化財的価値を有する庭園が存在する可能性が高く、ある程度効率的な調査が可能である宗教法人を対象に、庭園の存否や全体傾向の把握、現地調査等をおこなうこととした。

3 調査方法

アンケート 住所が確認できた奈良市域所在の宗教法人545件（寺院：255件、神社：164件、その他法人：126件）に対し、アンケートを実施した。設問項目は、庭園の存否

のほか、主たる庭園の広さや様式（ここでいう様式は、学術的な体系に基づく庭園様式ではなく、アンケート回答者が直感的に選択できる用語による分類とした）、庭園内の構成要素、作庭時期や作庭者、改変歴の有無、当該庭園に関する史料（古記録、絵図、書籍など）の存否や調査歴の有無などであり、回答を選択肢から選択させた（一部記述含む）。

質問紙は、宗教法人代表者宛てに直接郵送し、同封の返信用封筒にて回収した。2013年6月28日に発送し、7月26日を投函締切とした。期限を過ぎても多数返送されたため、集計では2014年1月30日までに返送された回答をケースとした。回収数は、298部（回収率：54.6%）、有効回答数は289部（有効回答率：53.0%）であった。

現地調査 上記アンケートにて庭園が「ある」と回答した法人を対象に、2013年7月より現地調査を継続中である。作庭時期の古い庭園や既往文献に記載があり、文化財的な価値を有すると推察される庭園から先行して調査をおこない、25件以上実施した。現地では、写真撮影と庭園の大まかな形状や構成要素を整理する略図を作成（森蘊らによる過去の実測図や写真が存在する場合はその現況比較や修正等）したほか、庭園の特徴や作庭時期、改変の時期や内容、維持管理や利用状況などの詳細について所有者等にヒアリングをおこなうとともに、絵図や建物図面などの関連資料を収集した。

4 アンケートの結果

庭園の存否 敷地内の庭園の存否を問う設問では、「ある」が103件（35.6%）、「過去にあった」が8件（2.8%）、「現在においても過去においてもなし」が178件（61.6%）となり、庭園がない法人が半数以上を占めた（以降庭園ありのケースについて解析）。また、庭園がある法人の内訳は、寺院が75.7%、神社が12.6%、その他法人が11.7%となり、圧倒的に寺院の庭園が多い結果となった。

庭園の広さや様式 庭園の広さは、「25㎡未満」が29.6%、「25㎡以上100㎡未満」が31.6%、「100㎡以上」が38.6%となり、比較的広い庭園が多いことがあきらかとなった。一方、庭園の様式は、池庭でも枯山水でもない「和風その他」が51.5%、「和風池庭」が27.7%とやや多かったのに対し、「枯山水（4.0%）」や「洋風（2.0%）」は少数の回答となった。

作庭時期と作庭者 作庭時期は、「江戸時代以前」が

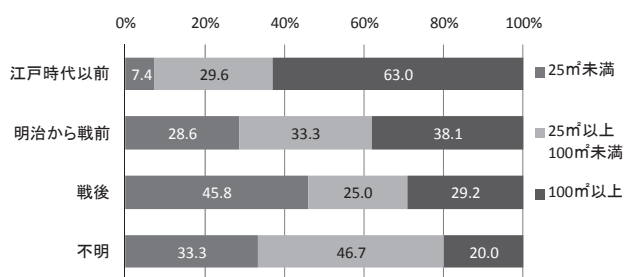


図 I-91 作庭時期別にみた庭園の広さ

29件（29.0%）、「明治から戦前」が24件（24.0%）、「戦後」が26件（26.0%）、「不明」が21件（21.0%）となり、明確な偏りはみられなかった。もっとも古い庭園は、鎌倉時代と推定される寺院の池庭であった。一方、作庭者については、伝小堀遠州作や伝如範作の庭園のほか、1950から1960年代に森蘊が手掛けた庭園も5件存在したが、作庭者不詳の庭園が8割以上であった。これは、庭園関連史料の存否に関する設問において、「作庭時や改変時の記録」がある庭園はわずか4件であり、史料が存在しない庭園が多いためと考えられる。

作庭時期別の庭園の特徴 作庭時期別に各設問の回答を集計した結果、図 I-91のように、江戸時代以前に作庭された庭園は、100㎡以上の面積の庭園が6割以上を占めるのに対し、戦後作庭の庭園は25㎡未満が半数程度を占めるなど、時代が下るにつれて面積が減少する傾向がみられた。また、図 I-92に示すように、江戸時代以前に作庭された庭園は、すべて「和風」として今日まで残存しており、中でも「和風池庭」が半数を占めることが特徴としてあげられる。そして、作庭時期が下るにつれて「和風その他」が増え、「和洋折衷」「洋風」の庭園もわずかながら作庭されているのがみてとれる。

これらに関連し、庭園の構成要素に関する回答結果において、江戸時代以前に作庭された庭園は、「池」「築山」「橋」「巨木・古木・名木」などを選択した回答が多いが、戦後作庭の庭園は、構成要素に定まりがなく、総じて小規模かつ多様化しているものと判断される。

庭園の改変 作庭から今日まで大きな拡張・縮小や改修等があったか否かを問う「改変歴の有無」については、「改変あり」が34.7%、「改変なし」が42.1%、「不明」が23.2%となった。また、江戸時代以前に作庭された庭園で、「改変なし」と回答された庭園は7件のみであった。さらに、特筆すべきことは、「改変あり」の庭園の90.6%が「寺院」の庭園であることである。寺院は、敷地の改修や建物の増築が比較的多いためと考えられる。

5 現地調査の経過

現地調査の所見 現地調査は現在遂行中であるが、現

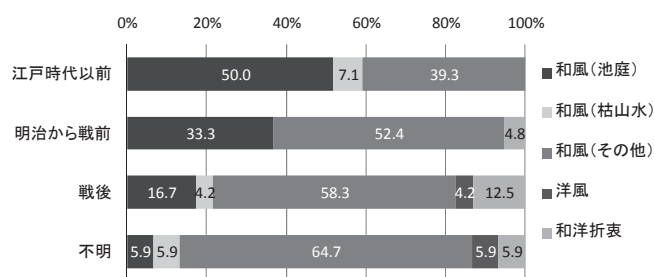


図 I-92 作庭時期別にみた庭園の様式

段階で確認できたことを以下に紹介しておく。

まず、大寺院の各坊院には、近世以前から整備された庭園が現在も密度高く残っており、それらの中には、近代以降に大きく改修を受けたもの、新しく作庭されたものもあるが、高く評価すべき可能性があるものが含まれていた。また、既往文献等に庭園の概要や所在が報告されている寺院以外にも、近世または近代に比較的良好な庭園が作庭されている事例が数件確認された。

さらに、明治期の廃仏毀釈により、多くの寺院庭園は削平など大きく姿を変えている可能性が高いこと、アンケートにて鎌倉時代や安土桃山時代に作庭されたとされる庭園についても、ここ数十年の間に大きな改修がなされていることが確認された。

そのほか、庭園の維持管理については、実生木の増加など植生管理に課題を抱えるとする所有者の意識が比較的多く聞かれた。

森蘊による調査・作庭 本年度に現地調査を実施した庭園については、森蘊らによる調査以来、専門家による本格的な調査が入っていないことが確認された。また、彼が修理・設計した多くの庭園が改変されずに維持されていることも確認できた。このような奈良市域の庭園に果たした森蘊の功績について知見を深めることができたことも、本年度の現地調査の成果である。なお、調査には従来から森に関する研究を進めている客員研究員エマニュエル・マレスも参加した。

6 今後の展望

今回の宗教法人へのアンケートによって所在が確認された庭園については、今後も現地調査を含む悉皆的な調査を継続する。また、2014年度は宗教法人以外の民間、および公的機関が所有する庭園についての調査に着手する予定である。

その上で、最終的には奈良市内の文化財的価値を有する可能性のあるすべての庭園について、現況を記録し、関連する情報を取りまとめて、網羅的に把握することを目標としたい。

（大平和弘／兵庫県立人と自然の博物館・中島義晴）